



スカイAカップ第42回関西オープン(男子)

6月9~12日/牧野松園ボウル

渡邊雄也が難敵連破し2勝目



▲2019年のラウンドワン JPBA決勝大会に続くタイトル奪取で両目を開けた



▲川添、山本との対戦に渡邊は「できれば当たりたくない相手。でも1G勝負ならチャンスはある…」と、見事に撃破

男女隔年開催で、今年は男子大会の関西オープンは、プロ141名、アマ51名が参加して6月9日から4日間、大阪・枚方市の牧野松園ボウルで行われたが、渡邊雄也(52期・株)グランドボウルが3位決定戦で川添奨太、優勝決定戦で山本勲を下し、2019年のラウンドワン JPBA決勝大会以来の2勝目を挙げた。(主催：関西オープン実行委員会)



▲「気持ちが入りすぎた」と反省の弁の川添、20勝に左手をかけて1年半タイトルから遠ざかっている

山本が圧巻のひとり旅

予選18G、準決勝6Gの長丁場を安定した内容で5471を打った山本勲をはじめ、和田秀和、甘糟翔太、渡邊雄也、川添奨太、江川司、斉藤征哉、日置秀一の8名が決勝ラウンドロビンに進んだ。また今年の新人5名がこの大会でデビューを飾った。そのうち4名が予選を突破し、決勝進出こそ逃したが、11位の伊吹太陽を筆頭にいずれも上位フィニッシュで初賞金をゲット、レベルの高さを証明した。

8名による総当たりラウンドロビンは、「だれがきても負け

る気がしないというのは、久々の感覚だった」と振り返った山本が、負けなしの8連勝、独走でトップシードを決めた。一方2位以下は、総当たり7Gを終えて約40ポイント差に5人がひしめく大混戦。ポジションマッチ5・6位対戦で江川を238:237と1ピン差で下した渡邊が2位にジャンプアップ、3・4位対戦で225で勝った和田が3位、223で敗れた川添が4位でTV決勝に進出し、山本に195で敗れた日置は2位から6位まで順位を落とした。

新米パパの執念も…

4位決定戦

ともにダブルスタートのあとは、ストライクが繋がらなかったが、3フレのスプリットで1マーク差を追いかける川添が、8フレからのフォースで224:207と逆転で勝ち上がった。予

選2日目の10日に夫人の山田幸プロが長女を出産、優勝報告をしたかった和田だが、4位にとどまった。

3位決定戦

このゲームもダブルスタートの川添だが、3フレは④⑥⑦と割れてオープン。すかさず4フレからのターキーでリードの渡邊が、8フレからのダブルで差を広げ、225:213で優勝決定戦に駒を進めた。永久シードの20勝へ足踏みとなった川添だが、やや精彩を欠いていた近況からは、完全復活近しを思わせる大会となった。

優勝決定戦

渡邊が2フレからダブルで先行すると、山本は3フレ⑥⑦のスプリットでオープン。渡邊がその後もストライクラッシュをかけると、山本も4フレからフォースで追いかけるが、8フレ⑦タップで先に切れた。渡邊が8フレもストライクで7連発を決め、257:215で山本を

退け、待望の2勝目を挙げた。一方「いくら内容がよくても最後の1Gで優劣がつく難しさを、また思い知らされた」と山本。一昨年に続きこの大会は2連続準優勝に終わった。

◎渡邊のコメント

相手が相手だっただけに、優

勝には自分でも驚いています。ただラウンドロビンのポジションマッチで、終わったと思っていたら、江川くんが最後にビッグファイブで1ピン差勝ち、しかも2位残り、これはチャンスがあるかなと思った。初優勝のときといちばん違うのは、心に少しゆとりがあったこと。これに満足しないで次の優勝を目指して頑張ります。

(優勝ボール:STORMフィジックス・マエストロ/STORMダークコード)



▶大会中に父親になった和田「悔しいけど、今の自分の持てるすべては出し尽くした」

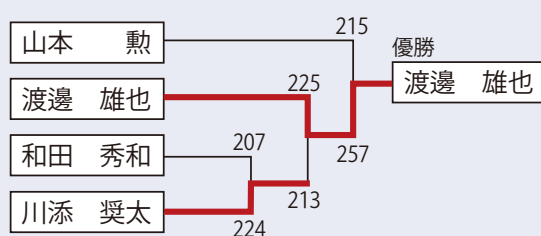


▶浅川啓大選手は総合20位で、前回大会に続き2大会連続のベストアマ



▲「ほぼほぼこのトーナメントを勝ち取った気分ではあるけど…」と、悔しさを隠せなかった山本

●TV決勝ステップラダー



●優勝決定戦

渡邊 雄也	7	20	50	80	110	140	170	199	219	238	257
山本 勲	1	20	38	47	77	107	136	156	175	195	215